



荒川中だより

村上市立荒川中学校 平成27年度 第2号

平成27年7月22日発行 TEL 0254-62-3251

教育目標「めあてをもって 自分で考え ねばり強くやり抜こう」

平成27年度の重点目標

「確かな学力の向上」「社会性の育成」「健康・体力の向上」「特別支援教育の充実」

校長 長谷川 浩志

部活動に学ぶ

6月23・24日（火・水）に下越陸上競技大会、7月1・2日（水・木）に下越各種大会が行われました。今学校で生徒たちは、県大会に駒を進めることができた人、惜しくも敗れ中学校時代の公式戦のすべてが終了した人と、様々な立場でそれぞれの気持ちをもって生活しています。

6日（月）には、下越大会報告会があり、各運動部の部長から報告が行われました。それぞれの試合結果報告とともに、監督の先生や応援してくれた友人への感謝の気持ちが述べられ、しっかりと成長した姿を見せてくれました。

部活動は、自らが選び、目標を掲げ、1年生から長い時間を仲間とともに続ける活動です。シンプルだけに、仲間との絆や思い出がたくさん詰まった活動になります。時には辛さ故にやめなくなったときもあったでしょう、仲間とうまくかみ合わず部活に出ることが嫌になったこともあるかもしれませんが。その時々をいろいろな人の支えで乗り越え、3年生の本大会に臨み今までのすべてをかけた結果が出ます。これは、運動部だけでなく吹奏楽部などでも同じことが言えます。こんな経験は、今後の人生の中でもめったにあるものではないと思っています。（高等学校の部活動は同様の経験もできますが、チャンピオンスポーツの傾向が強くなります）

部活動はいろいろなことを教えてくれます。「自分一人の言動で周囲を元気づけることができることの自覚や自信」「自分一人のわがままがチーム全体をだめにしてしまう怖さ」「部の仲間同士がいかに折り合いを付けて部全体の向上を目指すことの難しさと楽しさ」「先輩として後輩をリードしていくやりがいと苦しさ・難しさ」「努力が報われる充実感と努力しても届かない悔しさと後悔」シンプルだけに、学ぶことは強烈に胸に残ります。

人は自分の弱い部分や考えるとつらいことから、何とか遠ざかりたいと考えるものです。「組み合わせが悪かった」「全力を尽くしたから悔いはない」など自分に言い訳を言い聞かせてみたり、「練習していないから」「教え方が悪い」など結果が出る前に布石を打ってみたりです。しかし、結果は結果なのです。悔しさや後悔はあって当たり前なのです。下越大会で自分の努力が実を結ばなかった生徒には、ぜひ悔しさや後悔から目を背けずに、しっかり今までの部活動を自分を見つめてもらいたいと思っています。必ずこれからの中学校生活や進路、卒業後の人生に生きて自分を輝かせることにつながると信じています。学校では、部活動では勿論、学級などでも振り返りを行うことになりませんが、ご家庭でもともに「なぜ」を考えくださるようお願いいたします。学校では見せられない弱い自分をさらけ出すことができるようにしてもらえればと思っています。

様々なことをシンプルに学ぶことができる部活動。私は学習と並んで中学校生活では重要な活動と考えています。ぜひ、保護者の皆様も練習や試合をご覧いただき応援していただければ幸いです。



下越大会結果報告

陸上競技大会

【男子】			
共通800m	8位	臼井 遥大	(3-2)
1500m	7位	臼井 遥大	(3-2)
共通走高跳	6位	会田 康晟	(2-1)
共通棒高跳	3位	井上 直紀	(2-2)
	5位	貝沼 怜央	(3-1)
共通走幅跳	2位	上野 夏人	(3-2)
	6位	佐藤 未来	(3-2)
共通三段跳	2位	上野 夏人	(3-2)
	5位	佐藤 未来	(3-2)
共通砲丸投	3位	加藤 悠太	(3-3)
共通四種競技	5位	竹内 輝	(3-3)
低学年4×100m	6位	会田 康晟	(2-1)
		櫻井 隆樹	(1-3)
		相馬 翔	(1-1)
		芹野 諒	(2-3)

【女子】			
共通100m	6位	平田 那奈	(2-3)
共通200m	4位	平田 那奈	(2-3)
800m	6位	一ノ瀬 桃花	(3-3)
共通100mH	7位	瀧澤 希美	(3-1)
共通四種競技	2位	磯部 萌	(2-1)
	8位	渡邊 舞	(3-2)
共通4×100m	3位	磯部 萌	(2-1)
		平田 那奈	(2-3)
		渡邊 舞	(3-2)
		志村 知胡	(1-3)

野球大会

トーナメント1回戦 荒川 5-6 豊浦 ×

サッカー大会

トーナメント1回戦 荒川 0-4 山王 ×

ソフトテニス大会

トーナメント1回戦 荒川 2-1 紫雲寺○
2回戦 荒川 0-3 築地 ×

バスケットボール大会

トーナメント1回戦 荒川 52-43 津川 ○
2試合 荒川 43-64 山北 ×

卓球大会

【男子】			
団体戦			
予選リーグ1試合	荒川	3-0	五泉北○
2試合	荒川	3-0	安田 ○
3試合	荒川	3-0	川東 ○
決勝リーグ進出決定戦			
	荒川	2-3	三川 ×
個人戦			
・阿部 友哉 (3年) ベスト16			

【女子】			
団体戦			
予選リーグ1試合	荒川	1-3	五泉 ×
2試合	荒川	0-3	安田 ×
3試合	荒川	0-3	川東 ×
個人戦			
・初戦健闘			

バドミントン大会

団体戦			
トーナメント1回戦	荒川	1-2	中条 ×
個人戦			
ダブルス	小島・佐藤	5位	

剣道大会

【男子】			
団体戦			
	3位	(1勝2敗)	
・荒川	1-2	五泉	×
・荒川	3-1	安田	○
・荒川	0-4	本丸	×

【女子】			
団体戦			
	3位	(0勝2敗)	
・荒川	2-3	山王	×
・荒川	0-5	中条	×
個人戦			
・小池綾香 (2年) 3回戦健闘			

柔道大会

1回戦	荒川(松本)	V S	聖籠 ○
2回戦	荒川(松本)	V S	中条 ×
敗者復活戦	荒川(松本)	V S	安田 ×

- ・陸上掲載選手は県大会出場
低学年リレーは県大会がありません
- ・各種 _____ 選手は県大会出場

リスペクト アザース



7月7日(火)、村上市
人権擁護委員協議会
松井良明様 から人権
講話を行っていただき
ました。そこで、法務
大臣賞を受賞した作品
をもとに作成されたD

VDを使いながら、「自分から他の人を尊重していく大切さ」「学び続けることが人権を守ることにつながる」といったことを教えていただきました。終了後、ネットで検索しましたら、原文が見つかりました。神奈川県の中3年生の男子生徒の人権作文です。ご紹介します。

僕は、日本人の両親を持ちながら、アメリカのサンディエゴで生まれて、十歳半まで生活し、地元のデイケア（保育園）、プレスクール（幼稚園）、小学校に通った。その中で出会った先生たちが何度も口にした『respect others（リスペクトアザース）』という言葉は、今も僕の行動や考え方に大きな影響を与えている。

サンディエゴは、ロサンゼルス南にあり、メキシコの国境から一時間程度だったので、土地柄のせいか、クラスには、肌の色も髪の毛の色も本当にいろいろな人種の人たちがいた。僕が物心ついたときには、周囲にいろいろな人種の人たちがいるのが当たり前だったので、自分がまわりの人と違うことも当然だと思っていたし、それに対して深く考えることもなかったように思う。どこの国でも同じだと思うが、集団生活が始まると、誰かが意地悪をしたとか、誰かが誰かにいじめられたとか、いわゆる人間関係のトラブルが起こってくる。そんなとき、先生たちは必ず『リスペクトアザース』と言い、当事者に反省を促した。『リスペクト』の意味もはっきりわからない保育園や幼稚園の頃から、ことあるごとに繰り返し叩き込まれた。日本語にすると、「他の人のことを尊重しなさい」というような意味なのだが、今思うと「意地悪しないで、みんな仲良くしなさい」とか、「いじめはダメ」というそのときの行動を注意するのではなく、その行動を起こしてしまった根本の考え方を問題にしていることになる。

また、この言葉は僕が入っていたリトルリー

グの監督やコーチもよく使っていた。選抜テストがない地元のリトルリーグでは、上手い選手と上手くない選手が混合して十二人でチームとして試合に臨まなくてはいけなかった。上手くない選手がフライをポロリと捕りそこなったとき、チーム全体が「おい、この下手くそ」と怒鳴りたくなる場面で、監督やコーチは『リスペクトアザース』と言った。やる気がなくてエラーをするのはもってのほかであるが、やる気があっても上手くできない選手はいるのである。この場合は、そこをわかってやれという意味だと思っている。実際、当時初心者だった僕は、この言葉を聞いて救われる気持ちになり、もっと上手くなるようにうんと頑張り、シーズン最後にはチームに少しは貢献できるようになった。

その後、僕は日本の小学校に通い始めた。周囲のみんなのおかげで生活にはすぐに慣れたが、同時に大きなカルチャーショックも受けた。

一番驚いたことは、みんなが他の人と大きく違わないように、なるべく同じようになるように非常に気を遣っているように見えたことである。他人よりうまくいかないから目立たないようにしているのではなく、他人よりうまくできても目立たないようにしているように感じた。僕は最初のうち、そのノリがわからず今までどおり、自分が上手く出来たことを周りの人にも伝えていたら、「それは自慢だ」と言われて、なんとも悲しい気持ちになった。

また、友達同士で相手の気持ちになれば絶対言えないような侮辱するようなひどい言葉を言い合っているにも驚いた。僕がよくわからない世界だった。僕が叩き込まれていた『リスペクトアザース』の世界はここにはなかった。

僕の限られた経験の話になるが、アメリカ（サンディエゴ）ではなぜそんなに『リスペクトアザース』を子どもの頃から叩きこんでいるのだろうか。それは、アメリカ社会がつい最近までひどい人種差別などを行ってきたことの反省からかもしれない。居住地区を制限したり、公園やバスなどの公共の場でも座る場所をわけていたり、差別することが当たり前で、一般人が差別したりされたりすることに何の疑問を持たずに時代が流れていた過去がある。そんな過ちをこれから先に繰り返さないように、子ども達に叩き込んだり、またそうすることによって、

大人も自分自身を戒めているのかもしれない。

僕は日本でももっと、『リスペクトアザーズ』が浸透していけばいいと思う。日本は表面上差別のない社会なので、必要ないと思われるかもしれない。しかし、これこそが人権を考える上での基本だと思う。人権尊重の社会を作っていくのは、僕たちひとりひとりの考え方によるからだ。同じ人間は一人もいない。人と違っていることがまたその人の個性である。違う点だけでなく、うまくいったこと、できなくても努力していくことなどを尊重し合っていくことができれば、もっと素晴らしい社会になっていくと思う。

親子で読んでいただいて、話しをしてもらえたらありがたいと思って載せました。校長室前には、これを読んだ母親の投稿文を掲示しています。

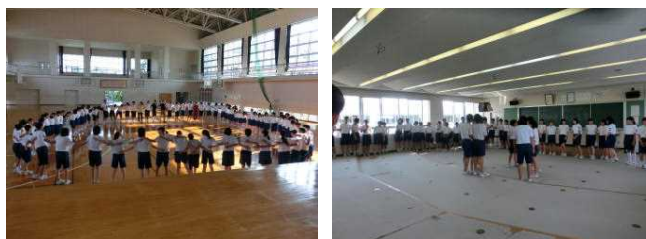
租 税 教 室



7月13日(月)に3年生を対象とした租税教室を行いました。講師に村山会計事務所の村山誠様と佐野滋様においでいただき専門家の立場から、税の必要性や有用性について話していただきました。

選挙権も18歳に引き下げられるなど、社会人としてのありようが求められています。権利だけでなく、義務の大切さも学んでもらえたことと考えています。

体育祭結団式



学校では、体育祭の準備が進んでいます。生徒数が減り、個人種目の連合対戦形式では、同じ生徒が何回も走ることとなり、体調が心配されるということから、今年度から団体種目のみとなりました。生徒会種目や学年種目が、今、

生徒たちの手で考えられています。

先日13日(月)には、生徒朝会で、各学級ごとのゲームで決定した連合の結団式が行われました。応援団やパネル係の自己紹介の後、連合の団結を高めようと一生懸命取り組んでいました。

1 学期を終えて

新入生を迎え始まった平成27年度も、1学期が終了します。始業式では、「挑戦」を生徒に話しました。生徒たちは、行事に部活に勉強に、個人で集団で挑戦してくれた学期でした。

1学期は、力を蓄える時期です。話し合いのやり方や計画の立て方などを、授業や学年・学級の活動をとおして学びます。またリーダーとしての在り方やチームワークを部活動等をとおして学びます。この力を一気に出し尽くすのが2学期の「体育祭」と「青雲祭(合唱)」です。自分たちで考え、工夫し計画・運営する姿を楽しみにしていきましょう。

生徒諸君「今こそ出番」です。今まで蓄えた技術や考え方をフルに使って、挑戦してみてください。結果は心配いりません。挑戦そこから感じたこと、思ったことが大切なのです。精一杯挑戦していきましょう。

夏休みは、補う時期です。1学期の学習で苦手とした部分や分からずにそのままにしていたこと。部活動などで時間がなくやれなかった趣味や手伝いなど。中学校生活で最も長い休みを利用して補充してください。学習に関しては、宿題と夏休み明けの確認テスト、前後半3日ずつの補充学習などを行って生徒の支援をしていきます。また、1年生の体験活動、2年生の職場体験、3年生の貢献活動なども計画しています。ご家庭でもお手伝いや読書、趣味などに大いに挑戦させてください。

2学期は、実践の時期。1学期で培った力を日常生活や様々な実践の場で発揮する時期となります。自分に期待して2学期を迎えられるよう、充実した夏休みを過ごしてください。

1学期間のご理解、ご協力に感謝いたします。ありがとうございました。